

令和6年度

鳴門市第二中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現
- GIGAスクール構想によるICTの活用

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
教諭 豊田 真子	校長 佐藤 修司 教頭 佐古 高伸 教務 志磨智恵子 教諭 長谷 美和 教諭 沖野 達哉

校長

佐藤 修司

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝学習の時間にワークやAIDリルなど一問一答の問題に黙々と取り組むことができる。また、授業でも与えられた課題に真面目に取り組むことができる生徒が多い。 ●苦手な教科や苦手な問題に対して、粘り強く取り組むことに課題がある。また、基礎的・基本的な知識・技能が十分に定着していない生徒がいる。	・授業規律を守り、授業の学習課題を把握し、基礎的・基本的な知識を十分身につけている。 ・苦手な問題や間違えた課題を繰り返し復習することができる。 ・学習の過程を通して習得した知識が既習の知識と関連付けられ、他の学習や生活の場面に活用することができる。	・家庭と協力して「3点固定」を徹底させ、規則正しい生活ができるようにすることで、授業規律を確保できるように努める。 ・小テストを実施したり、個別指導を行ったりすることで、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 ・AIDリルを活用し、一人一人に合った問題に取り組むことで、基礎的な学力の定着を図る。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペア活動や、グループ活動に積極的に取り組むことができる。昨年のアンケートでは、80%の生徒が「グループで調べたり、話し合ったりする学習が好きである。」と答えた。 ●文章題の問題や、自分の意見を書く課題に苦手意識を持つ生徒が多い。	・課題を解決するために、自ら考え、協力して行動できる。また、その考えを根拠を示しながら他の生徒に伝えるなど、表現することができる。 ・習得、活用、探究の各場面において、適切な言語活動により表現することができる。	・タブレットを効果的に活用した言語活動に取り組ませる。個人やグループで調べたりまとめたりしたことをクラスメイトの前で発表する機会を設ける。 ・新聞のコラムの書き写しに取り組むことで、読解力や文章の組み立て方が身につくよう支援する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業に一生懸命取り組む生徒が多く、テスト勉強にも熱心に取り組んでいる。 ●計画的に学習に取り組むことが苦手で、家庭学習の習慣が十分身につけていない生徒が多い。また、自ら課題を見つけて主体的に取り組むことが苦手な生徒もいる。	・学習を通して、必要な方法・手段を選択し、失敗しながらも学びを継続していくことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・教科の課題をホワイトボードに示したり、テスト範囲表とともに計画表を配布したりして、学習のセルフマネジメント力を伸ばす。 ・「個別最適な学び」の実践のために、教材研究や研修を行い、授業改善に取り組む。 ・生徒が自らの学びのための選択ができるよう教材・教具の準備を行う。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

